

薬剤溶出性ステント留置後の血管内治療過程に関する血管内視鏡を用いた多施設共同コホート研究について

本調査研究の概要を以下に示します。【対象】に該当すると思われる方で、本調査研究に関するお問い合わせや調査の対象となることを希望されない場合は、担当医にお申し出ください。

【本調査研究の目的】

冠動脈疾患があり薬剤溶出性ステント留置後の血管内治療過程を血管内視鏡で評価することにより今後のイベントや予後との関連を明らかにします。

【対象】

2016年6月～2018年4月の期間に当院で冠動脈造影検査目的に入院した患者さん。

【調査項目】

＜評価項目＞入院時のフォローアップカテーテルにおいて、検査時に通常行われている血管内視鏡によるステント留置部観察を行いプラーク数と性状(黄色プラークの色調と、血栓の有無、破綻の有無の評価)と合わせて、臨床所見との関連、イベントにつながっていくかを評価する。

＜観察項目＞PCI 施行日、フォローアップ日、ステントの種類、来院時疾患、標的血管、総ステント長、ステント径、ステント留置圧、前拡張バルーン径、前拡張バルーン拡張圧、後拡張バルーン径、後拡張バルーン拡張圧、糖尿病の有無、高血圧症の有無、喫煙の有無、BMI、家族歴の有無、血管内視鏡所見(新生内膜被覆度、黄色度、血栓の有無)、採血項目(PCI 時、フォローアップ時)ヘモグロビン A1c、血糖値、総コレステロール、中性脂肪、HDL コレステロール、LDL コレステロール、CRP、ヘモグロビン、クレアチニン、尿酸、投薬背景：インスリン、ビグアナイド、DPP-4 阻害薬、SGLT2 阻害薬、チアゾリジン、スルフォニルウレア、グリニド、 α グルコシダーゼ阻害薬、スタチン、アスピリン、クロピドグレル、プラスグレル、チクロピジン、左室駆出率

なお、必要な情報のみを統計資料として集計しますので、患者さんのお名前など個人を特定できる情報が明らかになることはありませんので、ご安心ください。

【研究期間】

承認日から 2025 年 12 月 31 日(調査状況により調査期間を延長する可能性があります)

【研究代表者】

樋口 義治

大阪警察病院 循環器内科

大阪市天王寺区北山町 10-31

TEL : 06-6771-6051

【研究事務局】

樋口 義治

大阪警察病院 循環器内科

大阪市天王寺区北山町 10-31

TEL : 06-6771-6051

【当院の研究責任者】

石原 隆行

関西労災病院 循環器内科

〒660-8511 兵庫県尼崎市稲葉荘 3-1-69

TEL: 06-6416-1221 (代表)

FAX: 06-6419-1870 (代表)